

TOKYO VERDY



東京ヴェルディ

Green Heart Room 1/2

“センサリールーム”の、その先へ。様々な障がいのある方がご家族でJリーグの試合観戦を楽しめるように、東京ヴェルディは特別支援学校、パートナー企業、スタジアムと協働で、「Green Heart Room」を運用しています。Green Heart Roomでは、センサリールームの主な対象となる自閉症や感覚過敏だけでなく、様々な障がいのある方や、ご家族に障がいがありスタジアム観戦への心理的ハードルが高い方のために、毎回部屋をカスタマイズしています。コンセプトは、自宅のリビングルームにいるようにリラックスしてJリーグを観戦していただくことです。



活動場所 味の素スタジアム



協働者

企業、学校、スタジアム

協働者名

東京都立多摩桜の丘学園、株式会社エムール、味の素スタジアム



協働者の声

株式会社エムール／代表取締役 高橋 幸司 氏



継続性が大切で、この活動を日本全体に広げていかなければいけないです。その際に私たちは活動の知見を独占するのではなく、様々な方に活用してもらえるような仕組みを作らないといけません。今回ははじめての一步だということを忘れずに、当たり前はこの活動を続けていきたいと考えています。

※初回実施時コメントより抜粋



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)

カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





東京ヴェルディ

Green Heart Room 2/2

Story

「ヴェルディさん、センサリールームだと自閉症や感覚過敏だけが対象になってしまうから、どんな障がいのある方でも受け入れる部屋をつくってははどうですか？」

東京ヴェルディのGreen Heart Roomは、この言葉から始まりました。

2021年2月、私達は大きな音や照明が苦手な方のためのセンサリールーム導入を考えていました。そこで当事者目線のご意見を聞くため、スポーツ指導で訪問している特別支援学校多摩桜の丘学園にご相談したところ、冒頭の言葉をいただいたのです。

私達は「センサリールーム」という言葉にとらわれ



ていたことに気づきました。すぐに方針を変更して先生方に様々なアドバイスをいただき、クッションやラグにベッド等、必要な備品をリストアップしました。

次にご相談したのは株式会社エムール。寝具・インテリアのメーカーで、長年クラブにご協賛いただいています。私達の想いをお伝えしたところ、二つ返事で全ての備品をご提供くださいました。

多摩桜の丘学園児童・生徒の皆様からご利用希望の方を募集すると、たくさんのお申込みが。2021シーズンは5試合で実施しましたが、各試合ともご利用の方に事前のヒアリングを行い、障がいごとの特性に対応できるように部屋をカスタマイズして当日を迎えました。

味の素スタジアムにもご協力いただきながらお迎えした5家族の皆様には、幸いご満足いただくことができました。試合を観ながらクッションでくつろいだり、部屋で遊んだり。試合の前後には、ヴェルディのコーチがアトラクションやプレゼントを用意して盛り上げます。ご家族で楽しい時間を過ごしていただき、その思い出が東京ヴェルディとつながって



いる。そのことを大変うれしく思います。

私達はスポーツが生み出す身体の健康や心の穏やかさを、Green Heartという言葉で表現しています。その環が広がっていくよう、今後も活動を持続していきます。